

第5学年 音楽科学習指導案

1 単元名 和音でembot（和音のひびきを感じよう）

2 単元の目標

- ・ 和音の響きの美しさを味わって聞いたり表現したりすることができる。
- ・ 和音の響きを感じ取って、音の重なりを表現するプログラムを友だちと工夫することができる

3 評価規準

関心・意欲・態度	考え方	技能	知識・理解
音が重なり合う響きの美しさを求めて、聞いたり表現したりしようとしている。	音が重なり合う響きを感じ取って、演奏を工夫している。	響きの変化を感じ取って演奏したりしている。	音が重なり合う美しい響きを味わいながら聴いている。

4 単元について

本単元は、「和音や低音のはたらき」の学習を踏まえた発展学習として行う。音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、試行錯誤する中でそれらが生み出すよさや面白さを感じながら理解できるようにする。

5 教科の学習とプログラミング教育の関連

教科の学習で理解した和音のひびきや音の重なりを基に、プログラミング教材で表現することで、新たな表現方法を試行錯誤したり、日常生活の中の音表現につなげたりできるようにする。

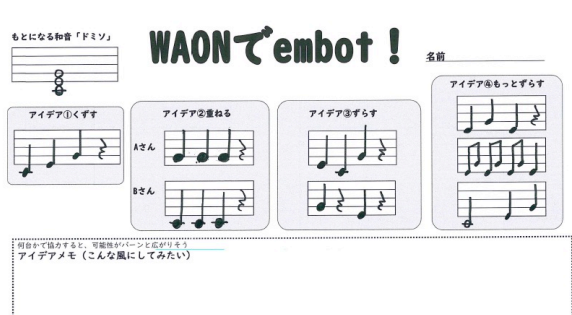
6 学習指導計画（全4時間）

時	学習活動	●留意点 ○評価																
1	<p>相性のよい音の組み合わせを考え、和音の構成音の關係に着目する。</p> <p style="text-align: center;">音と音の響きの相性を考えよう <small>※紙</small></p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse; margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">ド</td> <td style="padding: 2px;">レ</td> <td style="padding: 2px;">ミ</td> <td style="padding: 2px;">ファ</td> <td style="padding: 2px;">ソ</td> <td style="padding: 2px;">ラ</td> <td style="padding: 2px;">シ</td> <td style="padding: 2px;">ド</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> <td style="padding: 2px;">E</td> <td style="padding: 2px;">F</td> <td style="padding: 2px;">G</td> <td style="padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <input style="width: 100px; height: 15px;" type="text"/> </p>	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド	C	D	E	F	G	A	B	C	<p>●下記の活動を教科外の時間として行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ダンボールロボットembotを、説明書を見ながら組み立てる。 できあがったembotを自分のイメージ通りに装飾・工夫する。 ロボット名・IDの設定をし、どんなプログラムがかけそうか考える。</p> </div>
ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド											
C	D	E	F	G	A	B	C											
2 ・ 3 本時	<p>embotの音を鳴らす機能をつかったプログラムを考える。</p> <p>以前学習したドミソの和音についてふり返り、友だちと重ねたりずらしたりしながら響きを味わう。</p>	<p>○音の重なりや、和音の響きを意識して、プログラムに生かすことができている。</p>																
4	<p>考えた表現を紹介し合うことを通して、和音のはたらきや音の重なりについて振り返り、今後やってみたい表現について考えをもつ。</p>	<p>○音の重なりや、和音の響きに着目して、友達の表現を受け止めて、振り返ることができている。</p>																

7 本時について

(1) 目標 音の重なりや和音の響きを工夫して表現しよう

(2) 展開

分	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価
5	<p>■和音の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に学習したドミソの響きを思い出す。 ・和音は重ねたりずらしたりして異なる響きを楽しめることを確認する。 <p>■課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>embotをつかって和音を楽しむ プログラムを作ろう</p> </div>	<p>○ 実際にピアノで和音を聞かせ、ワークシートともに重ねたりずらしたりしたときの響きを鑑賞する。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・embotのブザーを使って、どんなプログラムを作ってみたいか自由にワークシートに記入させる。 	<p>○ 意図を理解している児童のアイデアをクラスで共有する。特にペアやグループで音をつなげたり重ねたりする工夫を凝らすようなものを作ることを促す。</p> <p>○ シミュレーターを使うと、タブレットからの大きめの音をクラスで共有することができる。</p>
25	<p>■プログラムを組んでみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音の響きを楽しみながら、embotを実際に操作する。 	<p>○ 和音の響きを感じられるプログラムができたグループのものをクラスで共有する。</p>
5	<p>■ふり返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	<p>☆音の重なりや、和音の響きを意識して、プログラムに生かすことができている。【活動】</p>

(3) 評価

音の重なりや、和音の響きを意識して、プログラムに生かすことができている。【活動】

【A】和音の分散や音の重なりを考えたプログラムを試行錯誤できる。

【B】和音の分散や音の重なりに着目してプログラムを作っている。

【C】例示をしたり、グループを構成したりして、音楽の要素に着目させる支援が必要である。